

第148回教育研究評議会議事要録

日 時 平成29年6月12日（月）14時00分から16時28分まで
場 所 医学部本部棟5階 大会議室
陪 席 千家監事
欠席者 熊倉評議員，境評議員，大谷評議員

- ・第147回の教育研究評議会議事要録について議決された。

議 題1. 平成28事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について
秋重理事から，資料1により報告書の内容について説明があり，今後の字句等の修正は学
長一任とし，原案どおり議決された。

議 題2. 島根大学の「新学事暦」（案）について

武田副学長から，5月の教育研究評議会で協議事項となっていたこの件について，資料2
により「新学事暦」としてA案，B案，C案のどれを選択するかについて審議するものであ
ることが説明され，各学部での検討結果を考慮し，医学部を除く全学部でC案の学事暦を導
入することが提案された。但し，総合理工学部，生物資源科学部，理系大学院の改組に伴う
教職課程認定申請が授業回数15回の授業計画で申請されていることから，C案の授業回数
14回の案は平成30年度から導入が出来ず，早くても平成31年度以降に適用することにな
ること，C案導入後はフレックス・タームの有効活用のために種々な取組や授業で教員の
協力が必要であるとの補足説明があった。

教育学部長から平成31年度には免許法の改正による教職課程認定の申請が必要である
が，新しい学事暦で申請が可能か確認の必要があるとの意見があり，その点は文部科学省に
確認することとし，教育研究評議会としてC案を採用することが議決された。

なお，入学式を新学事暦の導入時期に係わらず，平成30年度から4月2日で固定化し，
2日が休日等となった場合は実施日を別途検討するが，入学式を現行より早めることが確認
された。

協議事項1. 島根大学の特別入試（案）について

武田副学長から，大学入試センター試験に代わって平成32年度に始まる新テストと高大
接続事業による入試改革を受け教育・入試改革特別委員会において検討してきた本学の特別
入試を「へるん入試」と名付け，この特別入試に従来の推薦Ⅰ・Ⅱ，AOⅠ・Ⅱを一本化し
たいとの提案があった。

武田副学長から資料3により，「へるん入試」は一般型と特定型で構成され，一般型は現
在の推薦入試に相当し，特定型は小規模定員の特別な入試であり，特定型には各学部で少人
数規模での特別な課題を課し，特別な目的を持った入試を設けることも可能であるとの説明
があった。続いて選抜方法，募集定員の説明があり，募集定員については，一般型と地域入
試A・Bを合せて，まずは各学部定員の35%を目安に導入し，その後段階的に増加してい
くことが提案された。また，「へるん入試」の特色としている出願前指導と入学前指導の概

要の説明と、就学前サポートシステムによる学力担保のシステムを平成32年までに構築予定である旨説明があった。最後に入試の実施体制としてアドミッション推進会議の他にへるん入試委員会を立ち上げ、委員会に各学部から委員が参加する必要があるとの説明があった。

今後のスケジュールとして、各学部において今回の【島根大学育成型特別入試「へるん入試」について（最終答申）】で提案されている黒字部分について7月までに検討し、その後青字部分を検討することとした。

報告事項

学長から、報告事項については、「会議の効率的な開催について（申し合わせ）」に基づき特に説明が必要な事項について報告する旨の説明があり、以下について報告があった。

報告事項3「情報セキュリティ講習（eラーニング）の受講状況について」は秋重理事から資料6により報告があった。

報告事項4「平成29年度入試実施状況について」はアドミッションセンター美濃地准教授から、資料7により報告があった。

報告事項5「平成29年3月卒業・修了者の進路状況について（平成29年5月1日現在）」は荒瀬理事から報告があった。

報告事項6「島根大学支援基金の収支状況について」は資料8により藤田理事から支援基金の繰越額が年々減少していることについて報告があり、基金への寄付協力の依頼があった。

報告事項7「第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果について」秋重理事から報告があった。

報告事項のその他として、「JFN学生ラジオCMコンテスト2017」について教育学部長から教育学部生の応募作品が第6ブロックで選出されたことについて報告があり、「千葉県市原市の地層「千葉セクション」（チバニアン）」について総合理工学研究科長から本学教員と院生が参加している研究グループが千葉県市原市の地層を「チバニアン」の名称で国際標準として申請していることについて報告があった。